

「山形C12号（やまがた紅王）」の品種特性と生産状況について

令和7年2月10日

園芸大国推進課

1 育成の経過

(1) 交配年 平成9年

○交配親

「紅秀峰」× C-47-70（「レーニア」×「紅さやか」）

〔種子親〕 〔花粉親〕

(2) 現地適応性の検討（平成23年～29年）

- 果実品質が良好で普及性が高いと見込まれたことから、平成29年9月に品種登録出願し、令和2年3月に品種登録。



■「山形C12号」の果実

2 品種特性

(1) 開花期と結実性

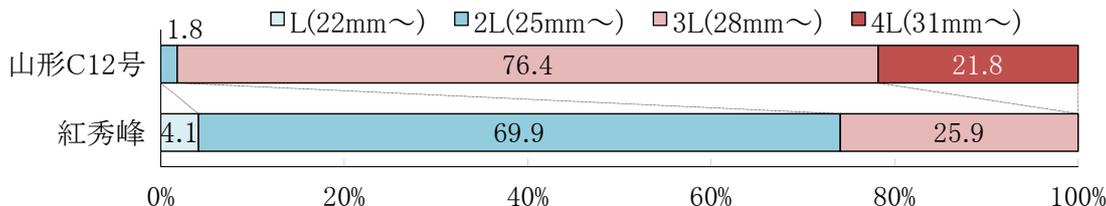
- 開花期（満開期）は、4月下旬で、「佐藤錦」と比較して、2～6日早く、「紅秀峰」と同時期～2日程度早い。
- 結実性は、「紅秀峰」より少なく、「佐藤錦」よりやや良好である。

(2) 収穫時期

- 「佐藤錦」と「紅秀峰」の間となる6月下旬から7月上旬。

(3) 品質

- 果実は3L～4L中心の大玉で、「紅秀峰」より大きい。着色良好で外観に優れる。
- 糖度は20度以上と「佐藤錦」並みで、酸味が少なく上品な甘さで、食味良好である。
- 果肉が硬く、日持ち性に優れる。



■「山形C12号」と「紅秀峰」の階級比率(平成29年)

※「山形C12号」はコルト台7年生樹、「紅秀峰」はコルト台20年生樹

3 「やまがた紅王」の品質基準

【階級】2L以上（果実横径25mm以上）、【等級】丸秀以上（着色面積50%以上）

※4L以上かつ特秀の果実には、「やまがた紅王 プレミアム」の名称を用いることが可能

■「やまがた紅王」の品質基準

横径 着色	4L [31mm以上]	3L [28mm以上]	2L [25mm以上]	L [22mm以上]	M [19mm以上]
特秀 [80%以上]	「やまがた紅王 プレミアム」				
秀 [65%以上]	「やまがた紅王」の名称で販売			「やまがた紅王」 の名称では販売しない	
丸秀 [50%以上]					

4 「やまがた紅王」の出荷状況

- ・「やまがた紅王」は、令和4年度に先行販売、令和5年度に本格販売が開始された。
- ・販売3年目となった令和6年度の出荷量（推計）は31tであった。販売5年目となる令和8年度には、100tの出荷を見込んでいる。

■出荷量の経過と見込み

令和4年度 (販売1年目)	令和5年度 (販売2年目)	令和6年度 (販売3年目)	令和7年度 (販売4年目)	令和8年度 (販売5年目)
4~5t (先行販売)	17t (本格販売開始)	31t	70t (見込み)	100t (見込み)

5 「山形C12号」の導入状況

(1) 生産者登録の状況（令和6年3月末現在）

- ・「山形C12号」は、本県果樹では初となる生産者登録制度を導入し、知的財産の保護と1戸当たりの苗木の導入本数を定めることで、早期の出荷量の確保とブランド化に取り組んでいる（導入本数 H30~R1:10本以上、R2~:5本以上）。

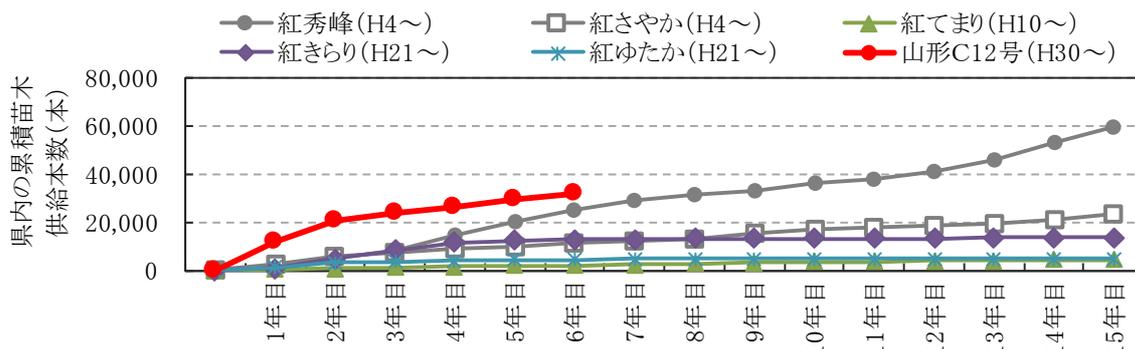
■年度ごとの登録経営体数、登録本数、供給本数(令和6年3月末現在)

登録年	経営体数		登録本数			供給本数
	【新規】	【登録済】	合計	コルト台	アオバ台	
平成30年度	1,406	—	16,658本	15,560本	1,098本	11,773本
令和元年度	205	198	3,792本	3,311本	481本	8,677本
令和2年度	576	99	3,794本	3,445本	349本	3,648本
令和3年度	199	94	2,013本	1,902本	111本	2,083本
令和4年度	321	386	4,250本	3,960本	290本	3,485本
令和5年度	160	95	2,199本	2,039本	160本	2,336本
合計	2,867 経営体		32,706本	30,217本	2,489本	32,002本

※令和2年から生産者登録制度における1戸当たりの導入本数を10本から5本に引き下げ

(2) 苗木の導入状況

- ・「山形C12号」は、「佐藤錦」、「紅秀峰」に続く3本目の柱となるよう導入を推進していく（【目標】栽培面積:250ha、苗木導入本数:50,000本 [R15]）。
- ・「山形C12号」の苗木は、平成30年からの6年間で、合計32,002本が導入されており、植栽面積は160ha程度と推計される。
- ・県育成のさくらんぼ品種の苗木が県内に20,000本導入されるまでの年数は、「紅秀峰」では5年、「紅さやか」では13年を要しており、「山形C12号」は早期に生産現場への導入が進んでいる。



■県育成さくらんぼ品種の県内における苗木導入本数の推移(JA 全農山形)